

白川静漢字教育賞【第10回】



自由部門

(講評: 選考委員 牧田 菊子 氏)

「喜び」



福井県 福井市大東中学校 1年
松間 大喜さん

講評: 松間さんの作品は、古代文字の「喜」が太く丸みのある線で紙いっぱいに書かれ、周りのカラフルな水玉模様と相まって、大きな喜びが表現されています。コロナ禍の行動制限がなくなって社会が活気づいてきたことを喜び、それが続くようお願いが溢れています。

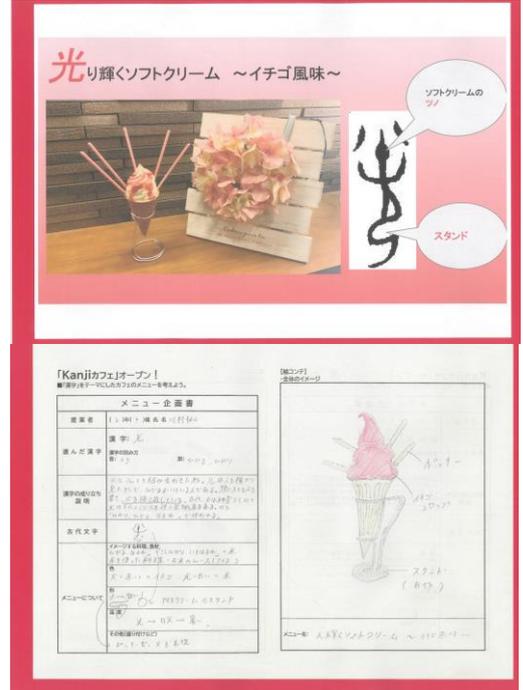
「米粉ドーナツ」



福井県 福井市藤島中学校 1年
政兼 志紀さん

講評: 政兼さんの作品は、「糖」という漢字の意味やイメージを、フルーツやお菓子等を取り入れて表現し、その色合いやデザインが美しく、ぱっと見る人の目を引きまます。明るく、ポップな感じが印象的です。創作に真摯に向き合う作者の姿を感じます。

「光」漢字カフェメニュー



福井県 福井市大東中学校 2年
川村 拓己さん

講評: 川村さんの作品は、火を表すポッキーをいちご風味のソフトクリームに差し、人の形を表す自作のスタンドにそれを立てるなど、字源を踏まえた表現の工夫がきらっと光ります。古代文字の「光」が、カフェメニューとしてとても素敵に表現されています。

「漢字成り立ちアニメ 『漢なり』」(動画作品)



動画はこちらから



福井県 福井県立高志中学校 3年 竹田 壮佑さん

講評: 竹田さんの作品は、見ていて思わずずっと笑ってしまうようなユーモアにあふれたショート動画です。SNSやインターネットとの相性もよく、軽快さが心地よい作品です。漢字の成り立ちについてイメージを膨らませ、楽しく探究していることが伝わってきます。

「たのしい学校 なかよし2年生」



福井県 福井市越廼小学校 2年生の皆さん

講評: 越廼小学校 2年生の皆さんが、楽しみながら充実した学校生活を送っている様子が目に浮かびます。それぞれが選んで書いた文字の個性と自身の個性が連動し、「なりたいひとになれるようがんばります」という思いがよく伝わってきて、明るい未来を感じます。

「一人百句」



京都府 立命館小学校 5年
山本 拓海さん
※漢字川柳部門 優秀賞受賞

■講評 —漢字川柳部門—

(斎藤 瑞恵 氏)

漢字川柳部門には二百二十八点の応募がありました。漢字川柳部門は、漢字の成り立ちに関するものということで、まずは漢字の成り立ちを調べ、そこから想像をふくらませて創作した川柳を応募する部門です。

どの作品も漢字の成り立ちをうまく捉えて、そこからそれぞれが思い描いた世界を五・七・五の十七音に見事に収めつつ、読み手の共感を誘う作品となっていました。漢字の成り立ちと当時の情景、そして現代の私たちの心がつながることで素敵な作品が生まれました。

■講評 —漢字作文部門—

(斎藤 瑞恵 氏)

漢字作文部門には七十九点の応募がありました。漢字作文部門は、漢字にちなんだ四百字までの自由作文を応募する部門です。

今年度は日常の中で触れる漢字について、独自の視点から考えを書いた作文が多く、その発想のおもしろさに感心しました。

今年度より応募対象が小学一年生からとなっており、これから本格的な漢字学習が始まる小学一年生からの応募があったことも大変頼もしく感じました。

■講評 —自由部門—

(牧田 菊子 氏)

自由部門には七百二十一点の応募がありました。自由部門は、白川静博士や漢字をテーマに、自由な発想で創作した作品を、考えたことや工夫した点などの解説を添えて応募する部門です。

今年度は、国語科だけでなく美術科や家庭科など教科横断的に取り組まれた作品も多く、昨年度の3倍以上の応募数でした。多くの小・中学生が、古代文字との出会いをきっかけに、漢字との対話を多様な視点で楽しみ、その世界に浸り、考えたことをアイデア豊かに表現していることに感銘を受けました。



学校賞

※小・中学生の部

福井県福井市 大東中学校 (1校200点以上、第10回応募校中、最多数の応募があった学校に授与)



特別功労賞

白川静漢字教育賞が第10回を迎えることを記念し、設置しました。これまで白川文字学の普及発展に功労のあった5名、1団体を表彰。

 <p>いがらし としゆき 五十嵐 利幸様</p>	<p>福井新聞社編集委員、論説委員を歴任。京都の白川家に何度も足を運び、白川博士と親交を深め、白川博士の福井の現地秘書として絶大な信頼を受け、福井県と白川博士のパイプ役を務めた。立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、白川静会（東京）との連携や「白川文字学の室」開設に尽力。</p>
 <p>かねこ つみえ 金子 都美絵様</p>	<p>白川静氏に私淑し、古代の漢字世界を描きはじめ、画工として『サイのものがたり』『絵で読む漢字のなりたち』等を出版『白川静文字学に学ぶ 漢字なりたちブック』では、すべての絵と古代文字を描いている。平成26年から現在まで白川文字学の室に「白川静のこぼれ」を提供。</p>
 <p>くぼ ひろゆき 久保 裕之様</p>	<p>立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所において文化事業を担当。白川静博士の「漢字を分かりやすく学んでほしい」という思いを実践するために「漢字探検隊」を立ち上げ、神社や博物館等、様々な場所で実際に見学しながら身近な物と漢字の結びつきを探る講義を実施。「漢字探検隊」をこれまでに全国で200回以上開催。</p>
 <p>まつおか せいごう 松岡 正剛様</p>	<p>白川静博士に関する著書を発行し、全国で発売。自身のサイトにおいても白川博士やその著書について紹介し、またNHKの「知るを楽しむ 私のこだわり人物伝—白川静漢字に遊んだ巨人—」においても全4回に渡り白川博士を紹介。</p>
 <p>白川文字学 ゆうあいかい 遊愛会様</p>	<p>会長である定政成一郎氏を中心に会員数15名で活動。月2回、県立図書館にて白川文字学に関する講座を実施。他にも「漢字遊び」を開催する等、白川文字学を学んだり、楽しんだりする活動を行う。順化小学校等で出前授業を実施。</p>
 <p>きのした ともお 木下 智雄様</p>	<p>白川文字学に関心が高く、白川静会（東京）の活動に参加。白川静漢字教育賞に賛同し、第2回(H26)～第10回(R5)まで、毎回10万円を寄付。</p>

福井県では、本県出身の白川静博士の功績にちなみ、特色ある漢字教育を実践している方や、漢字文化の普及や生涯学習の推進に貢献している方、ならびに漢字に親しむ小・中学生を全国から公募、表彰する「白川静漢字教育賞」を実施しており、今年度、第10回を迎えることができました。今回は12都道府県から1,042点のご応募をいただきました。

令和5年9月、福井県庁にて選考委員会を実施し、受賞作品を選考いたしました。

【選考委員】(敬称略)

- 棚橋 尚子 (奈良教育大学教育学部教授)
- 加藤 徹 (明治大学法学部教授)
- 後藤 文男 (立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 所長)
- 伊与 登志雄 (福井新聞社 参与・特別編集委員)
- 津崎 史 (白川静博士長女)
- 豊北 欽一 (福井県教育委員会 教育長)
- <小・中学生の部のみ>
- 牧田 菊子 (福井県中学校教育研究会 国語部会長)
- 斎藤 瑞恵 (福井県小学校教育研究会 国語部会長)

第10回白川静漢字教育賞の受賞作品については、「白川文字学」ホームページからもご覧いただけます。



福井県教育庁生涯学習・文化財課
TEL : 0776-20-0559
Mail : syoubun@pref.fukui.lg.jp